

意外かも知れませんが、何も分からぬ幼児が医学者が一堂に会して病気について議論をなされたかわせているところに入つて、『どうして病気になるの?』と聞いていたら、その質問に自信をもつて答えられる人は恐らくおらずません。それは、病気について詳しく研究されている割に、何故、病気になるのかについては未解決な点が多いからです。病気の原因は錯綜していますし、未だに人智の及ばないところがあります。しかし、筆者は、健康と病気とは一事実の表裏であり、生体の機能が健全に働くか、ない状態が続くことが、病気の原因の相当部分を占めていると考えています。この点から、光線が生理作用に及ぼす影響について、もっと注目しなければなりません。特に、日本のように地理的に光線に恵まれた国でも、文明の進歩は否応なしに生活環境から光線を奪いました。これが成人病やアレルギー疾患や精神身体疾患などの増加をもたらしました。

健康と光線

(四、五面および七、八面参照)

内因と外因

殆どの病気は、内因に外因が加わって発病します。例えば、感染症の場合でも、感染と発病は別であって、発病には個体の要因、すなわち、内因(抵抗力)が関わっています。ところで、光線は、個体の免疫系、神経系、内分泌系の機能を保ち、内因を強化する上で欠くべからざる働きをしています。この点に着目した前東京光線療法研究所所長、宇都宮義真は、薬の不足は病気の原因にならないが、光線の不足は病気の原因になる」と言い切り、光線不足がもたらす内因の欠陥、すなわち、前述の機構を介して保たれている生体恒常性(ホメオスタシス)が失われることを重視する必要性を強調しましたが、正に至言と言ふべきです。この言葉の持つ重みは、光線の作用が解明されるに連れて次第に増しつつあります。

免疫機能と光線

昔から、新鮮な空気と日光は

自律神経・内分泌機能と光線

最近、視覚を介する光線の作用が注目されています。光が眼に作用して、生物リズムの生成または同調(体内時計)に関与します。この機転を支配する因子が、松果体でつくられるホルモンであるメラトニンであります。これが分かりました。

サナモア中央診療所でも、自律神経失調症を始め、ノイローゼ、更年期障害、情緒不安定、うつ病などの患者に、起床時に目を閉じて顔に10分~30分照射させることによって、症状が改善した例を経験しています。

おわりに

光線不足は病気の原因

— “内因”を重視せよ —

サナモア中央診療所 医学博士 宇都宮 光明

内因機能に関係しています。したがって、生体のリズムが乱れると、実際に様々な愁訴が出ます。特に、冬から春先にかけて、精神状態が不安定(不定愁訴症候群)になって内科を受診する患者は、5~10%あるといわれますが、光療法で改善することができます。

あけまして
おめでとう
ござります

平成三年元旦

サナモア光線協会



治療医学と予防

医学の一一致

現代医学では、とかく結果を急ぐ性急な方法、すなわち薬物療法や手術療法が多く用いられています。しかし多少は遠回りになつても、身体にある防衛力、つまり抵抗力（自然治癒力を強くして、自然に病気に勝つようにすることも大切です。

病気になるのは、その人がその病気にかかり易くなつたからです。したがつて、症状を薬で一時的に無理やり押さえ込んで、あるいは悪い部分を切り取つても、病気にかかり易い体质はそのまま残っています。その上、これらの治療法の大半は、予防医学には役立ちません。むしろ、これから医学で求められるのは、予防医学にも役立つ治療医学です。ほとんどの場合、病気になり易い人は、病気が重くなり易く治りにくいということであり、病気になりにくい人は、病気が軽く治り易いということです。そこで、どう

いたら病気になりにくい身体が重くなり易く治りにくいということです。そこで、どういたら病気になりにくい身体が重くなり易いということです。そこで、どういたら病気になりにくい身体が重くなり易いということです。そこで、どういたら病気になりにくい身体が重くなり易いということです。そこで、どういたら病気になりにくい身体が重くなり易いということです。そこで、どういたら病気になりにくい身体が重くなり易い

ことができないかを研究する必要があります。

薬の効果と治癒力

多くの人は、薬の効果を過大に評価し過ぎており、反面、自分の中にある治癒力を過小に評価し過ぎています。無論、薬には「原因療法薬」としてなくてはならないものもありますが、大部分の薬は「対症療法薬」です。それ故、よく効くという薬は、実はよく症状を消しただけで、本当に治したのは個々の患者の治癒力なのです。

例えば、腰を痛めた時、その人の年齢で治る日数に差が出ますが、これが治癒力の差です。風邪も、よく効く風邪薬とは熱や痛みによく効く薬のことです。風邪の原因のウイルスには何の効果もありません。却つて、よく効く薬は、それだけ副作用が出て、身体には有害ですか、抗風邪薬は、抵抗力が衰えて風邪は長引き、稀に命に関わることすらあります。

医学の新分野を拓く光線療法

光線は何千年も昔から、健康法や治療法として用いられてきました。しかるに、昨今の私

Dがなければ吸収されませんから、骨が強固になることはありません。もし、カルシウムをとれば治るのなら、骨の脆い人は直ぐ全快するはずですが、何時までたつても治らないだけでなく、却つて悪くなる人もいるのは、ひとえにカルシウムを利用

宇都宮 義真

ちの周囲を見ると、汚れた空氣、どんよりとした日光、日当たりの悪い家、室内でばかり暮して外に出ない人など、光線と疎遠な暮らしの様々な情景が目につけます。このように、すべてに光線が不足した状態が何年も続ります。日々の疲れが積もり積もつて、身体の抵抗力が弱ってしまって、遂に病気になった人も少なくありません。そんな人には、清淨な光線と休息が何物にも勝ります。

サナモア光線療法は、自然の光線のすべての作用を応用した療法ですから、健康面、予防面のみならず、いろいろな病気の治療面で卓効があつて極めて当然なことです。しかし、多くの人々が、「信じられない」「奇蹟」と思っているのは、如何に長い間、薬と手術を過信するように仕向けられてきたかの証拠でもあります。

今、自然の光線の偉大な力を利用した新しい医学分野を開拓することが求められています。サナモア光線療法は、自然の光線と同じ光線を利用し、若さと健康と長寿を保つ、医学の新分野を拓く魔法の光です。

サナモアは、樺太時代から愛用していましたが、敗戦の混乱でどうしても持ち帰れなかつたのです。それで、まだ鹿児島にいた昭和二十二年に、戦後、新しく造られたサナモア（写真1）を求めました。

私は敗戦直後の昭和二十年八月十八日、現在のソ連領の南樺太から、十六歳と一歳の娘をつれて身一つで脱出し、引き揚げ船で日本に帰りました。そして、亡き主人の故郷、鹿児島の揖宿郡穎娃村（現在の穎娃町）に落ち着き、そこで四年間住みましたが、それから、やはり亡くなりました弟を頼って、昭和二十四年八月に神戸に移り住み

知つてゐる人も見当たりません。サナモアの看板を出して待つて、困つていました。私も困つていましたが、苦しんでいた人を助けることが出来ないか

神戸には、全然と言つてよいほど知人は居りませんし、サナモア光線治療を

は来ました。主人はシヘリアは
抑留されていて居りません（二
年後に帰国）。家は弟が世話し
てくれました。さて、これから
どうして光線治療をして生活す
るか考えました。

リュツクサツクの思い出

ウエノ光線療研
上野貞

沢山の難病者を

ス貨や電車貨は抬凹でした。
ここでもリュックサックが活躍しました。往診治療には、トランスをリュックサックに入れ、背負い、器械の頭の方は手作りの袋に入れて、手にぶらさげて出かけました。その時のスタッフを思い出出して撮った写真で

ツクサツクの思い
ウエノ光線療研 上
でも、病気がよくなつてくると
信じてくれます。母と子が食べ
られればいいのです。当時のバ
と初めに無料ですることは決
めました。必死の思いでした。

過ぎましたが、まだまだ光線治療を知らない人が多いので、家庭用を十台以上手元に置いて、買う気になれない人に貸すことにしました。その上で、光線の治療方法を教えたり、病気の経過を見るために巡回して回りました。その頃には、世話になつたりユックサックの代わりに専

決して見捨てた
りしません。人
づてにだんだん
と患者も増え、
沢山の難病者を
助けることがで

ともあつて、先生は苦勞話の一端でも聞かせてほしいと頼みました。その返事に写真を添えて送つて下さいました。

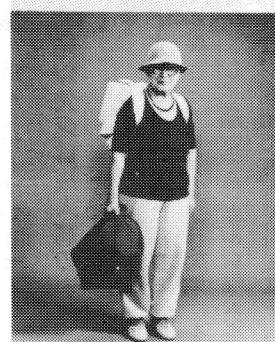
なお、先生は、盆石、盆画、書道、デコパージュ、ちぎり絵と趣味も多彩で、昨年十月には二回目の個展（八十七才のあゆみ展）を開いておられます（写真4）。

（宇都宮）

「後記」 亡父から、上野先生の成功秘話によく聞かされました。先生は朝起きると朝食もそこそこに器械を担いで飛び出しことで、午前の往診治療を済ませてから、午後は治療院で治療をする、息付く暇もない暮らしをされたとのことでした。そんなこ



①



②



3



4

写真①戦後のサンマリア、
②③往診
スタイル、④個展会場

続々 カルシウムは健康の礎 (その2)

成人病は“生活習慣病” —光線欠乏の“こわーい”働き—

常識の不備

成人病は、ある日突然、働き盛りの年齢層を襲う恐ろしい病気を総称した病名ですが、音ももなく近づき、いったん発病した

でなく、素因、生活習慣と深い関係がある。

二、最初は殆ど自覚症状がなく、知らぬ間に進行し、中年以降に発病する。

三、症狀が表に出た時は、既にかなり進んだ状態である。

同時に幾つかの成人病が重なって起きることも多い。

食習慣（塩分や脂肪の摂取過多、
ビタミンAの食事性障害の異常）

過少など)、肥満、ストレス、煙草、酒、運動不足などが危険

因子として挙げられ、最近では、

避けるようになると常識になっています。しかし、光線欠

乏が成人病の危険因子になることについては、光線欠乏に対す

る認識の甘さもあつて、未だ常識の域には達していません。

光線欠乏は成人病の 危険因子

光線を素肌に直に浴びる習慣

を失うと、ビタミンD欠乏症を起こし、延いてはカルシウムを

吸收、利用できなくなることは前号に記載しました。このビタ

二、カルシウム摂取量の不足
このうち、カルシウムの摂取
量については、前号の“応用光
線療法学”に記述したように、加
なお若干の不足が指摘されてい
ますが、現状は食生活の向上で
ほぼ満足できる状態にあり、加
えて昨今、人々の関心を集め
いることから、今後、一層改善

単に化骨に關係するだけでなく、生体のいろいろな機能に非常に重要な作用を及ぼします。そこで、体内のカルシウムが不足する原因は、次の二つに大別されます。

補うことは、カルシウムを補うことより遙かに難しいことを知らなければなりません。(表)

われます。それより、文明の發達に伴う生活習慣の変化が、必然的に光線を浴びる機会を奪うことから、光線が欠乏した際の悪影響について認識を深める必要があります。然るに、大半の人は無関心です。

新鮮食品100g中のビタミンD含有量

シイタケ	6IU	本マグロ(生干)	100
牛乳	2	ブリ(生)	360
人乳	5	サンマ(生)	340
バター	80	カツオ(生)	420
ウシ肝	100	カツオブシ	430
レバーベースト	90	ウナギ(かばやき)	170
卵黄	30	ウナギ(きも)	90
全卵	10	サバ(生)	330
サケカン(紅色)	800	マイワシ(生)	530
マス(生)	210	マイワシ(メザシ)	140
マス(塩)	370	サツマアゲ	450
ボラ(生)	100		
ワカサギ	30		
本マグロ(生脂身)			
	1300000		

(科学技術庁資源調査会編)

考にして表を見ていただくと分かるように、魚肉以外の食品では補えないことが明らかです。したがって、光線が欠乏すると、即、ビタミンD欠乏状態を起すと考えて大きな誤りはなく、結果的に、カルシウム摂取量の如何にかかわらず、カルシウム不足を招く可能性があります。

さて、カルシウムの99%は骨にあります。骨は、一方で新しく形成され、他方で破壊、吸収されて、常につくりかえられていますが、カルシウムが不足して、骨吸収が骨形成を上回る負のバランスが長期に続くと、カルシウムは徐々に骨から抜け出て、骨粗鬆症を起こすことになります。しかも、この変化は骨だけに留まりません。

カルシウムは生体が機能を保持する上で極めて大切な電解質ですから、カルシウムの吸収が不十分で血液中のカルシウムが不足すると、カルシウム調節ホルモンが働いて、過剰な骨吸収を起こし、大量のカルシウムが血液中に動員されます。しかし、血液中のカルシウムが多くなり過ぎると、意識障害を起こし、命に関わる事態を来しますから、

△四ページからつづく

生体は直ちにカルシウムを組織内や細胞内に逃がします。その結果、組織内や細胞内のカルシウム濃度は異常に上昇し、それと伴って組織障害や細胞の機能障害を起こしますが、その一環として、成人病の危険因子として作用します。

成人病とカルシウム

カルシウムが欠乏するとさまざまな障害を起こします。以下、特に成人病に関連する代表的な事例を挙げて説明します。

一、動脈硬化とカルシウム

加齢に伴って、程度の差はあります。が、誰にでも起きるのが動脈硬化です。しかし、起こす速度は決して一様ではありません。この動脈硬化の程度を知る一つの目安として、動脈へのカルシウムの沈着があります。カルシウムの沈着がいる人ほど、動脈硬化が進んでいると考えられているからです。

カルシウム不足が続くと、骨の粗鬆化を起こすだけでなく、前述したように、動脈組織内のカルシウム濃度が上昇し、カルシウムの沈着を促します。そこで、骨量(骨の粗鬆化の程度を

示す)と動脈硬化の関係を調べますと、骨量が減少している人はほど動脈のカルシウムの沈着が多く、動脈硬化が進行している人はカルシウムの沈着が少なく、動脈硬化を起こしていません。

二、高血圧とカルシウム

塩分のとり過ぎが高血圧の悪化因子になることはよく知られていますが、カルシウムの不足が高血圧の一因になることは余り知られていません。

コーネル大学のレスニック博士は、カルシウムの高血圧に対する治療効果を検討した結果、満足すべき降圧作用を認めたことから、安易に副作用のある降圧剤を服用しないで、カルシウムを豊富に含有し、ビタミンDが添加されている牛乳(アメリカでは添加されていません)を一日1リットル飲んで、血圧の状態を調べるようにアドバイスしています。また、ジョンズ・

ホプキンス大学のブラー博士は、特に妊娠後期にみられる高血圧が、ビタミンDとカルシウムを補給することによって防げるこ

とを明らかにしました。この際のカルシウムの降圧効

果は、次のように考えられています。すなわち、カルシウム不足は過剰な骨吸収を起こします

から、それに伴って動脈組織のカルシウム濃度が上昇し、動脈の平滑筋が収縮して血圧が上がりますが、必要なカルシウムを吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

近年、世界的に増加が著しい、

乳ガンと結腸ガンの罹病率、死

亡率には際立った特徴があり、

ガーランドらの研究の要旨は、

から、それに伴って動脈組織の

カルシウム濃度が上昇し、動脈

の平滑筋が収縮して血圧が上

がりますが、必要なカルシウムを

吸収することによって、骨代謝

が正常になります。

地理病理学に日照に恵まれた地

域で低く、同じ緯度では都会よ

り田舎ほど低い値をとることに

あります。

糖尿病の血糖をコントロールする点では、インシュリンの発見とその後の抗糖尿病剤の開発とが相まって、ほぼ満足できる状況になったにも拘らず、糖尿病に伴う慢性合併症は減少せず、寿命も長くなっているのが実情である。一方、これまでの光線、特に紫外線に関する研究報告から、光線が糖代謝に影響を及ぼすことが明らかにされ、治療に有用なことが示唆されている。

ところで、この度、糖尿病でいったん起こしたら治療は難しいとされている糖尿病性神経症（疑い）のため歩けない状態になつた患者に光線療法を行つたところ、四ヵ月で自分で歩けるようになり、以来、今まで良好な状態を保つていて興味ある症例を経験したので報告する。

光線療法による糖尿病の一治療例

川崎市 東京光線治療院 海渡 一二三

症例

患者 43歳 男性 大工

主訴 歩行困難、知覚鈍麻、

既往歴 10年以上前に会社の

現病歴 初診は昭和49年5月。

四、五年前に糖尿病の症状がひ

どくなり、のどの渴き、全身倦

怠感、発汗、耳鳴り、めまいな

どを起こしたために入院した。

入院後は、厳しくカロリーを制

限され、インシュリンの注射、

ビタミン剤や安定剤の投与を受

けた。しかし、58キロあつた体

重は徐々に減り続け、症状は一

向に改善の兆しを認めず、1年

前からよく歩けないようになり、

これまでの経過ならびに初診

時のことから、合併症の糖尿病

が、見るからに重症感があ

り、かつ体力の消耗も激しかっ

たので、一度は治療を断つた。

しかし、奥さんから、今の苦し

みが少しでも楽になるなら助か

るなくともよいか、是非に、

と頼まれ治療をすることにした。

なお、糖尿病の治療薬は、来院

時には中断していた。

初診時所見 患者は奥さんに背負われるようにして来たが、見るからに憔悴していた。全身

の皮膚は黒味を帯びた茶褐色

やせ、冷感、発汗過多、口渴感、

めまい、不眠

既往歴 10年以上前に会社の

健康診断で糖尿病を指摘されて

これまでの光線、特に紫外

線に関する研究報告から、

光線が糖代謝に影響を及ぼす

ことが明らかにされ、治療に有用なことが示唆され

ている。

ところどころで、この度、糖尿

病でいったん起こしたら治

療は難しいと

されている糖尿病性神経症（疑い）のため歩けない状態に

なつた患者に光線療法を行つた

ところ、四ヵ月で自分で歩ける

ようになり、以来、今まで良好

な状態を保つていて興味ある

症例を経験したので報告する。

治療ならびに経過 体力の消

耗が余りにひどいので、まず食

べることをすすめた。その上で、

カーボンは、主にAカーボン

とBカーボンを組み合わせて使

用し、二台の治療器を使う二灯

照射法を用いた。照射部位は、

側臥位で肛門部と足首、次に腰

と膝、次に腹と足裏、次に後頭

部に照射し、次いで体位を仰臥

位に変えて、左右の肩、左右の

横腹、左右の膝に横から照射し

た。なお照射時間は原則として

10分追加して、約二週間で麻痺は

各々十分としたが、肩のよう

に改善の兆しを認めず、1年

前からよく歩けないようになり、

これまでの経過ならびに初診

時のことから、合併症の糖尿病

体重は徐々に増加し、48キロから50キロになった。その頃にな

つて、やつと愁眉が開けた感じ

がしたことを、今でも鮮明に覚

えていた。その後も治療は続けていたが、

昭和51年5月29日に、水田に入

つて田植の苗を配った後で、突

然、顔面神経麻痺を起こし、手

を使わないと眼を閉じられなく

なったのである。そのため、A

カーボンとBカーボンで、顔面

と両側の耳に、各10分追加して

照射したが、約二週間で麻痺は

なくなった。

本例は四年間通院して治療し

し、だるさを訴えていた腰から

下はやや短めに照射した。言う

たが、日増しに健康を取り戻し

たので、昭和52年5月より自宅

治療にしたが、今も二灯照射で

じて、カーボン、照射時間、照

射部位は適宜調整した。

ところでも、職場復帰のための

治療を始めてから、顔色が良

くなり、赤みが出てきた。食欲

は増し、よく眠れるようになり、

のどの渴きは軽くなり、めまい

は受けた。その結果、糖尿病は良

好にコントロールされており、

糖尿病性神経症に伴う諸症状も

改善していったので、職場復帰で

の診断書を貰えたのである。し

できるところまで体力がつき、

(七ページからつづく)

かし、長期に休職したこともあり、直ぐには職場に戻して貰えず、他の職場で一年働いてから、元の職場に復帰した。なお最近では、平成1年9月に来院したが、すこぶる元気である。

考案ならびに結語

既に一九三〇年代に、光線、特に紫外線の糖代謝に及ぼす影響が検討されている。リップマン、フェルカーラは、健康者の血糖値に与える影響を調べ、血糖を下げる作用はないと報告している。一方、カルロス・デフナーやロスマンらは、糖尿病患者で血糖の値が病的に上昇している場合には、その値を下降させる効果のあることを報告している。この効果について研究したデシユワンデンは、インシュリンの生成によると述べた。

これらの初期の研究報告からも、糖尿病の治療に光線療法を応用し得ることを知るが、近年になって、その作用機序の一端が解明された。すなわち、ノービタミンDが直接β細胞のイン

スキヤロライナ大学のストゥン

シュリンの分泌を促す作用の

プラは、光線によって生成され

ることを立証しました。すなわ

るビタミンDおよびカルシウム

ち、間接的に光線の糖尿病に対

射性同位元素で標識してその標

する効果を裏付けたのです。

的器官を調べた結果、インシュ

リンを分泌する臍臍のβ細胞が

標的器官に数えられることを明

いて、光線療法の原発性脱髓性

疾患の多発性硬化症に対する治

療効果を発表したが、その際に、

実験的に光線を遮断してビタミ

ンDを欠乏させると脱髓性変化

が、ビタミンDのようなホルモ

を起こすが、光線照射によつて

ン作用を持つ生理活性物質は、

治療する効果を述べた。この点

β細胞にビタミンDの受容体が

から、今回報告した糖尿病性神

理作用を営むのである。加えて、

経症に対する光線療法の効果は、

糖尿病に併発する二次性脱髓

対しても有効に作用した可能性

が示唆している。

β細胞にビタミンDによって

厳密に生成が規制されているビ

タミンD依存性カルシウム結合

以上、光線療法が糖尿病の管

蛋白が存在することが発見され、

理ならびに合併症の治療に有効

ビタミンDがインシュリンの分

なことを示す所見に、二、三の

この点に着目したカリッフォル

考察を加えて報告したが、これ

ニア大学のノーマンらは、ビタ

からも症例を積み重ねることに

内容をまとめたものである。なお、

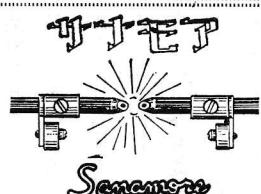
本例は平成2年4月発刊の本紙に

%低下することを明らかにし、

治験例として掲載した。)

サナモア光線協会

趣意書



サナモア光線協会は、天地創造の昔から、眞の光、即ち太陽光線です。従つて、目に見える可視光線だけではなく、目に見えないが無くてはならない紫外线や赤外線を目的に応して適切に放射しなければなりません。このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙・普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

医学博士 宇都宮 光明

サナモア光線協会

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会 TEL(03)793-1521
（七一二一五三二二）